

林で見られる生きもの・昔と今

～インタビューの結果から～

林の持ち主や管理している方にインタビューができた場合、そこで得られた情報についても報告していただきました。対象となった林のなかで、この報告があったのは、約40%でした。

昔はいたのになくなった動植物についてみると、哺乳類が多く、ノウサギ・タヌキ・キツネなどの中型哺乳類に姿を消した種が多いようです。植物・菌類ではマツ類が1位を占めました。これは松枯れの広がりによるものと考えられます。また、シュンラン・エビネ・キンランなど美しい花をつける植物が多くあがっていることは乱獲らんかくや林の管理の仕方の変化による影響と推測されます。

一方で、最近見られるようになった動植物としては、カラスという回答が目立ちました。カラスは、ゴミを餌として利用することによって個体数を増やしているといわれていますが、この調査でもそうした変化が反映される結果となりました。また、イノシシ・ニホンジカ・ニホンザルについては山麓部さんろくぶに進出している傾向が現れているものでしょう。植物では、セイトカアワダチソウなどの帰化植物が上位を占めていました。また、昆虫についての事例はわずかでしたが、名前のあがったナガサキアゲハ・クマゼミ・ツマグロヒョウモンは北上しつつある南方系の種という共通点があるのが興味深く感じられます。植物で名前のあがったシュロも同じような性格のものです。

昔はいて、今はなくなった動植物 トップ10(分類別)

脊椎動物

種名	出現件数
1 ノウサギ	243
2 タヌキ	169
3 キツネ	110
4 キジ	74
5 イタチ	70
6 リス	66
7 フクロウ	63
8 ヘビ類	48
9 コジュケイ	31
10 マムシ	19
10 ムササビ	19



無脊椎動物

種名	出現件数
1 カブトムシ	48
2 クワガタムシ類	37
3 ホタル類	28
4 トンボ類	12
5 セミ類	11
6 タマムシ	7
7 チョウ類	6
8 カミキリムシ類	5
8 ニイニイゼミ	5
8 ハルゼミ	5



植物・菌類

種名	出現件数
1 マツ類	40
2 シュンラン	38
2 エビネ	38
4 マツタケ	24
5 キンラン	22
6 アカマツ	19
6 ヤマユリ	19
8 カタクリ	15
9 キキョウ	14
10 リンドウ	13
10 センブリ	13



昔はいなかったのに、見られるようになった動植物 トップ10(分類別)

脊椎動物

種名	出現件数
1 カラス	104
2 イノシシ	76
3 タヌキ	62
4 ニホンジカ	41
5 サル	40
6 ノネコ	39
7 キツネ	36
8 ハクビシン	33
9 キジ	29
10 タイワンリス	27



無脊椎動物

種名	出現件数
1 アオマツムシ	10
2 ナガサキアゲハ	6
3 クマゼミ	5
4 アリ類	4
4 ツマグロヒョウモン	4

注) 6位以下は、出現件数が2件以下だったため、省きました。



植物・菌類

種名	出現件数
1 セイトカアワダチソウ	136
2 セイヨウタンポポ	36
3 オオボタクサ	15
4 シュロ	13
5 タケ類	12
6 ブタクサ	10
7 ササ類	9
7 アオキ	9
9 アメリカセンダングサ	8
10 クズ	6

